

文庫あれこれ◆この14日に来たときはまだ薄明かったのに、今日、同じ時間に電車を降りたら、日はとっぴり暮れて淋しい駅前でした(18日)。◆2011年も思えばあと40日余。東北大地震、放射能のこと、タイの洪水、トルコの地震、ユーロ圏の経済問題、わが国のTPP問題・・・。國中、誰の身近にもひしひしと不安が忍び寄った年でした。また、先月帰ってから身近で3人を見送りました。◆ひとは、児童文学作家の長谷川摂子さん。大人にはあまりご縁がないかもしれませんが、子どもたちには、『きよだいなきよだいな』『めっきらもっきらどおんどん』などで大好きな絵本の作家でした。葬儀に参列して、彼女の家庭塾で薫陶を受けた子ども(今は大人)代表の送る言葉が印象的でした。おばちゃんは、親より厳しかった。ぼく達にいたずらを仕掛ける人、ぼく達がどんな悪さをするか、楽しんでみてた人・・・。そしてご主人の、何より精神の自由な人でした、という言葉が胸に落ちました。文庫には、たくさんの絵本や児童文学作品のほか評論、エッセイなど在庫しています。私と同じく4人の子持ちで、私より1歳下でした。◆あと2人は、私たち夫婦が小学校でお世話になった担任ご夫妻です。前後2週間の間に亡くなりました。でも、こちらは、先に逝かれた女先生が男先生をあちら側へ呼ばれたのだと、羨ましく思いました。◆湿っぽい話ばかりで恐縮ですが、表紙頁の詩が掲載されている本の一読をお薦めします。3.11後に寄せられた30人余の文学者からのそのときを思っの詩文集『ろうそくの炎がささやく言葉』(勁草書房)です。在庫しています。この本、この中の言葉をきっかけに、立ち止まって、振り返って、考える時間も大切だと思いました。◆表紙の写真は、11月初め夫さんと山形、福島の秘湯めぐりをしたときのもの。文庫開館の年が結婚40年でしたので、45年経ったことになります。放射能計測器を持っての旅でしたが、山形と福島では数値は大きく違いました。◆昨日19日のものすごい暴風雨は去って、今日は秋晴れです! (西)

❁ウサギの年を締めくくる催し物❁

★クリスマスお楽しみ・おはなし会
 12月18日 午前10:30~11:45
 1部 おはなし会
 2部 お楽しみ会・プレゼント交換

※大きい方もプレゼント用意してぜひ子どもたちとクリスマスを楽しみましょう!
 そうでない方は、できましたら、日曜は午後からおいでください。ホールは賑わって足の踏み場がありませんので。
 ☆プレゼントは300円程度をお持ちください。

❁❁今後の開館スケジュール❁❁

- ◆12月は通常17日(土)、18日(日)
- ◆新年1月は変則21日(土)、22日(日)
- ◆2月は通常18日(土)、19日(日)
- ◆3月は変則24日(土)25日(日)
- ◆4月は通常14日(土)、15日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時
 ※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
 午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
 開館土曜日11:00~13:00

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

今号から、伊豆高原の暮らしの中に生まれる身近な喜びをお伝えるコーナーを始めました。身近な楽しいホット原稿、お待ちしております。
atsuko@big.or.jp 又は 03-3709-7840FAX まで

2011年11月19日
 沙羅の樹文庫だより



山形各所で見かけた冬支度雪につぶれないように板で樹木を囲う。

赦されるために 古川日出男
 出来事がある。すると、もたらされるものがある。

私たちは目を逸らせない。
 もたらされるものがある。すると、反応する私たちがいる。

私たちは目を逸らすかもしれない。
 逸らさないかもしれない、わからない。
 私たちが動き出す。すると、出来事がある。

(3.11に漕調して)

さわやかな風がわたる楽しいこといろいろの秋がきました。大室町内会の文化祭が終り、「アートでピース」展、「高原の音楽会」がありました。どれもお金のかからない、素晴らしい楽しみでした。こちらは有料ですが「スペース沙羅」でヴァイオリンとバロック・ギター、リュートとの共演がありました。年に2回ほど開かれる小さなコンサートですが、終わるとワインとカナッペが出て、出演者と歓談できる楽しい集まりです。地元に着き、行けば誰かしらお友だちに会えます。「高原の音楽会」も「スペース沙羅」のコンサートも、大きく開けた窓ガラスの向こうの雑木林の上に広がる空が、ゆっくりと暮れなずむのをみながら音楽を聴くのは「今ここにいる幸せ」を感じるひとときです。

楽しいことたくさんこの秋の私の最大の興奮は「ニットのファッションショー」でした。町内に住み、もう50年もその仕事をなさっているという「ニットデザイナー・今井民子さん」の作品を、桜美林大の保養所のロビーを会場にして、手作りのショーにして見せてくれました。スタッフもモデルも素人でしたが、観客が取り巻くステージロード（何ていうのかしら）をしゃなりしゃなり？あるいは意気揚々？、賑やかにピースをしながら・・・と緊張しながらも、ご近所のおじさま、おばさまがいろいろな表情で作品を見せてくれました。とても上品なイタリア帰りの奥様が黄色いかつらをつけていたり、（それがまたとてもよく似合っていました）ハットも賑やかな男性は、いつもどおりながら、またここにこと楽しげなお仲間の後に、こちこちの表情で現れる人がいたり、それはもう拍手喝采、大笑い、思わず身を乗り出して、と見ている私たちも大興奮、大喜びのショーでした。

若い方もちらほらといることはいましたが、ほとんどはシニアエイジ、その変身振りが、見ている私たちをとて



新しく入った子どもの本

クリスマスの絵本・読み物

『クリスマスのこねこたち』（スー・ステイントン文 アン・モーティマー絵 徳間書店）『1001のクリスマスをおさがせ』（アレックス・フリス作 テリ・ガヴァー絵 PHP）『トリフのクリスマス』（アンナ・カリ作 くもん出版）『むかしベツレヘムで』（シムズアルベルト・カルペンティール絵 佐久間彪文 至光社）『クリスマスものがたり』（ワイルドスミス作 曾野綾子訳 太平社）

『クリスマスケーキをさあどうぞ』『サンタといっしょにメリークリスマス』『サンタにてがみがとどいたよ』（まついのりこ作 童心社）『クリスマスのふしぎなはこ』（長谷川摂子ぶん 斉藤俊行え福音館書店）

『クリスマス物語』（マルコ・レイノ著 講談社）※サンタクロース=セント・ニコラスの感動の物語。親子で読んで。

★クリスマスの絵本、本は絵本の部屋の棚に別置しました★
新刊絵本：『おそとがきえた』（角野栄子文 市川里美絵 偕成社）『お日さま お月さま お星さま』（安野光雅さくカート・ヴォネガット、チャイェフ著 図書刊行会）『ねずみのすもう』（おざわとしお文 ふじもとしろ絵 くもん出版）

読み物：『ねむれなければ木にのぼれーアーミテージ一家のお話2』（ジョン・エイキン作 猪熊葉子訳 岩波少年文庫）※このシリーズに『おとなりさんは魔女』『とんでもない月曜日』が在庫です。

新しく入った大人の本(購入)

フィクション：『すべて真夜中の恋人たち』（川上未映子著 講談社）『ポーカーフェイス』（沢木耕太郎著 新潮社）『獅子頭』（楊逸著 朝日新聞出版）『無冠の父』（阿久悠著 岩波書店）『流される』（小林信彦著 文藝春秋）『黄昏に眠る秋』（ヨハン・テオリン著 早川ポケットミステリーブック）

評論・ノンフィクション『家郷のガラス絵』（長谷川摂子著 未来社）『絵本が目をおさすとき』（長谷川摂子著 福音館書店）『家郷のガラス絵』（長谷川摂子著 未来社）『聯合艦隊司令長官山本五十六』（半藤一利著 文藝春秋）『残したい日本語』（森朝男・古橋信孝著 青灯社）
文庫：『三つの秘文字 上・下』（S. J. ボルトン著 創元推理文庫）『涙の夜』（風野真知雄著 幻冬舎文庫）『涙の夜』（風野真知雄著 幻冬舎文庫）『瀬祭』（野口卓著 祥伝社文庫）

『母をお願い』（申京淑著 集英社文庫）★若い韓国人気作家ベストセラー初登場！

最近お借りした本についての読後感

2011年11月18日

By 森林浴

『生きて、語り伝える』G. マルケス著 新潮社 2009.11

これは20世紀最大の作家の一人（文芸評論家篠田一士が20世紀の10大小説にマルケスの「百年の孤独」を選んでいますが）、ガルシア＝マルケスの自伝であるが、これはまるで小説のように面白い。驚くべき記憶力と筆力に感嘆する。

『作家のへその緒』池内 紀著 新潮社 2011.05

この人の本はまず当たりそこねはない。文章は生きが良く鋭い。12人の作家の核心をズバリと指摘。与謝野晶子—髪・髪・髪、三好達治—軍人精神、谷崎潤一郎—乳首憧憬といった具合。かつて読んだことのある作品でも、なるほど、と思って再読すれば、また愉しめるに違いない。

『水滴』目取真 俊著 文藝春秋 1997.1

沖縄から出た芥川賞としては又吉栄喜「豚の報い」に次いでこの「水滴」が第二番目の受賞作。読んでやはり文学では会話の言語がいかに大切なものかを改めて考えさせられた。

「呆気さみよう！此の足や何やが？」（驚いた！此の足はどうなったのか？）

新しく入った大人の本(寄贈いただきました。)

フィクション：『ユリゴコロ』（沼田まほかる著 双葉社）
評論：『三島由紀夫 ロゴスの美神』（三島由紀夫著 山内幸人 岳陽舎）
文庫：『ぶらり平蔵 剣客参上・女敵打ち・心機奔る』（吉岡道夫著 コスミック時代文庫）3冊『混沌』（佐伯泰英著 講談社文庫）『いっぴきの虫』（高峰秀子著 思潮社）『海峽 海峽幼年篇』『春雷 海峽少年篇』『岬へ 海峽青春篇』（伊集院静著 新潮社文庫）『乙女ちゃん』（佐野洋子編 講談社文庫）『夕映え天使』（浅田次郎著 新潮社文庫）『海鳴り』（沼田まほかる著 双葉文庫）
『異形の大国中国』（櫻井よし子著 新潮社文庫）『マレー蘭印紀行』（金子光晴著 中公文庫）『女たちの大和』（逸見じゅん著 角川ハルキ文庫）